市東部の地域振興

本市東部の地域振興に対する考えは

渡邉　博夫

問 門池周辺地区への小水力発電の導入は。

答 **生活環境部長**／小水力発電の導入については、門池や牧堰用水の利用が考えられる。門池については、過去の調査で発電量が少なく採算が確保できないとの結果が出ており、現段階では困難である。牧堰用水については、現在、民間業者から事業提案を受けているが、関係法令に対する手続や維持管理に関する安全性の検討、地元関係者の合意等が必要であり、関係各課や事業者等と協議をし、早期導入を目指し取り組んでいる。

問 沼津インター線ぐるめ街道のにぎわいづくりに対する支援策は。

答 **産業振興部長**／にぎわいづくりについては、ぐるめ街道振興会と情報交換を密にしながら検討し、観光客や周辺住民を対象とした食のイベントの開催や門池公園の桜等の地域資源を生かした観光情報の発信などのぐるめ街道振興会の取り組みについて、国の支援メニューの活用を視野に入れながら支援に努めていく。

▲沼津インター線ぐるめ街道

新公会計制度対応

新公会計制度に向けた本市の対応は

片岡　章一

問 総務省による新地方公会計制度改革に対して行ってきた施策は。

答 **財務部長**／本市では、総務省からの通知に基づき、平成二十年度決算から総務省方式改訂モデルに基づく財務書類の公表や行政改革推進プランにおいて未利用地の売却、貸し付け等を行い、資産の有効活用を行っている。

問 新公会計制度の導入に向けた課題は。

答 **財務部長**／新制度導入に向けた実務上の課題として、固定資産台帳の整備と複式簿記への円滑な移行が挙げられる。固定資産台帳は、貸借対照表をより精緻なものにし、正確な財務情報を得るために必要となるが、総務省の作業部会の議論の中でも、現行の公有財産台帳等は、現在価値が明確でない上、全ての資産を網羅することになっていないという指摘がされ、引き続き、正確な資産把握に努める必要があるものと認識している。また、複式簿記の導入には、財務会計システムの改修や職員の理解、習得なども進めていく必要があるため、既に導入している自治体の事例などの情報収集や、国等の動きを注視しつつ、適切に準備を進めていきたい。

読書活動の推進

読書通帳を導入した市民の読書活動の推進は

長田　吉信

問 市民により読書に親しんでもらうために、借りた本の履歴を目に見える形で残すことで読書への意欲を高める効果が期待される読書通帳を導入する考えは。

答 **教育次長**／読書通帳には、ＩＣＴ（情報通信技術）を活用した機器の整備を必要とするものや、手づくりの通帳を配布し、利用者がみずから記入するものなどのさまざまな手法がある。読書通帳は、読書への動機づけや個人の読書記録になるなど、読書に対する意欲を高める上で効果的であると考えており、今後、読書通帳の活用方法等について調査・研究をしていきたいと考えている。

問 沼津市子ども読書活動推進計画の取り組み状況は。

答 **教育次長**／図書館では、子どもの読書週間記念講演会、読み聞かせ講座等の実施やホームページに子供用ページの開設を行い、子育て支援課では、七カ月児健康相談時等に絵本の配布や読み聞かせを行うブックスタート等の親子絵本ふれあい事業を行っている。小中学校では、朝読書を実施しているほか、司書教諭を配置義務のない十一学級以下の十校にも配置するとともに、学校司書十四人が市内四十一校を巡回している。

孤立集落対策

災害時における孤立集落対策は

頼重　秀一

問 災害時における孤立集落に対する取り組みは。

答 **危機管理監**／災害時における本市の孤立集落は、津波被害または土砂災害により道路の通行が不能となり、静浦、内浦、西浦、戸田地区の孤立が想定される。本市では、孤立集落と災害対策本部の直接通信が可能な地域防災無線を整備しており、また、地元消防団には、消防団無線及び地域防災無線を整備している。地域防災無線の取り扱いについては、自主防災会が定期的に取り扱い訓練を実施している。また、自主防災会における孤立想定訓練や集落住民が一週間程度生活するために必要な非常食、毛布やテント等を備蓄した孤立用防災倉庫を設置しており、定期的な点検を行っている。

問 災害時におけるヘリコプターの運用は。

答 **危機管理監**／災害時の孤立集落に対する災害救援活動等においては、ヘリコプターの運用が重要であると考える。静浦以南の地区には、拠点となる臨時ヘリポートが定められており、災害時には、自衛隊、警察、消防、医療機関などのヘリコプターと連携し、運用を図っていく考えである。